



# 墨古沢南 I 遺跡発掘調査現地説明会資料

## —日本最大級の環状ブロック群にせまる！—

確認調査期間：平成 27 年 10 月 1 日～平成 27 年 12 月 28 日

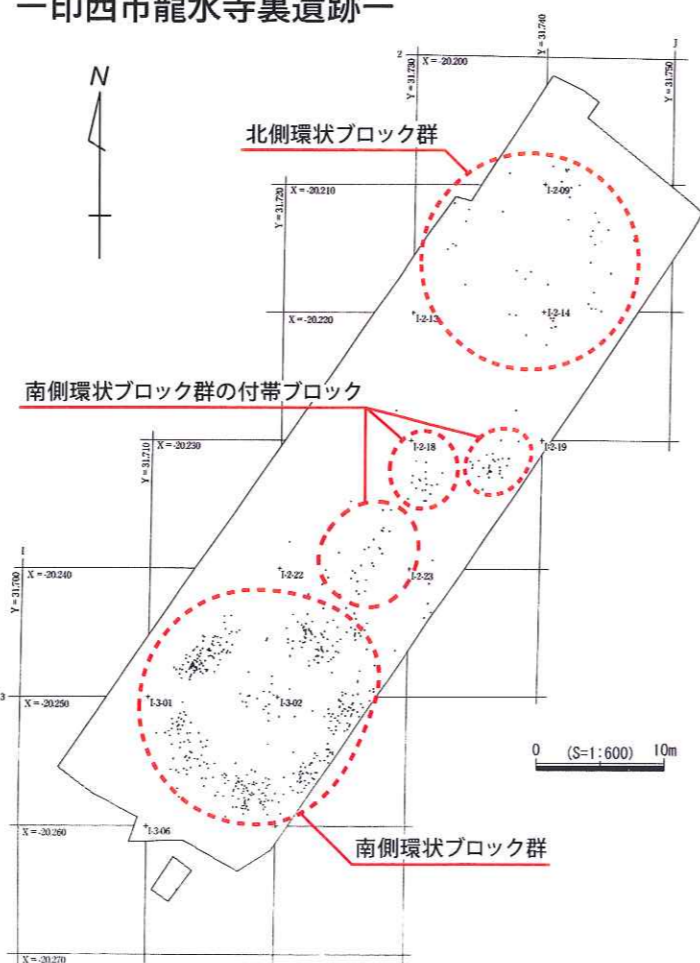
調査対象面積：2,583 m<sup>2</sup>

### 遺跡の概要

墨古沢南 I 遺跡は東関東自動車道酒々井パーキングエリアを拡張する際に発掘調査がおこなわれました。遺跡からは縄文時代の環状集落と、さらにその下から、後期旧石器時代前半期の環状ブロック群が発見されました。環状ブロック群とは、石器の密集している場所(石器ブロック)が同時に複数形成され、それが輪のように配置されている遺跡のことを言います。輪を描いているブロックを外郭ブロック、輪の内側に形成されるブロックを内郭ブロックと呼びます。また環状ブロック群の外側にも石器ブロックが形成される場合(付帯ブロック)や、別の環状ブロック群が伴っている場合もあります。

墨古沢南 I 遺跡の環状ブロック群は先の調査において西側半分が調査され、その結果、石器ブロックが 49 か所、出土石器総数 3,946 点(安山岩 2098 点、メノウ 370 点、トトロ石 234 点、流紋岩 204 点、黒曜石 25 点、砂岩 14 点、頁岩 164 点、粘板岩 19 点、ホルンフェルス 2 点、緑泥片岩 2 点、チャート 3 点、石英 1 点)、環状の径が 60m×54m と推定される、日本最大級のものだと考えられています。先の調査で出土した石器は墨コミュニティプラザに展示中です。

付帯ブロックと環状ブロック群が 2 基ある例  
—印西市龍水寺裏遺跡—



### 今年度の確認調査の目的

今年度は未発掘である環状ブロック群の東側半分を調査し、①石器が包含されている地層を観察し、西側から出土した石器と同じ時代のものか確認し、②環状ブロック群の径を決定します。また、③付帯ブロックや別の環状ブロック群の有無を確認することが今年度の確認調査の目的です。

### 関東ローム層 —旧石器時代の遺跡が眠る赤土—

旧石器時代は火山活動が大変活発な時期でした。それに伴って大量の火山灰が降り積もり形成されたのが「赤土」と呼ばれる関東ローム層です。下総台地の関東ローム層は基盤となる成田層の上に古い順から下末吉ローム層、武蔵野ローム層、立川ローム層と堆積しています。現在のところ最上層の立川ローム層よりも深い層から日本の旧石器時代遺跡は確認されていません。立川ローム層は主に富士山や箱根の火山灰によって構成されていますが、中には鹿児島県から降灰した始良・丹沢火山灰(AT)などの広域火山灰や、火山灰の供給が弱まった時期にできると考えられている黒色帯が見られます。このような特徴のある層を鍵層と言いますが、これらは旧石器時代の時期を考える際に非常に重要な要素となっています。また火山灰は科学分析をかけることにより実年代がわかる場合があります。たとえば先ほど挙げた AT は約 2 万 9000 年前に降灰したとする分析結果が出ています。これらを踏まえて墨古沢南 I 遺跡のローム層を見ながら、この遺跡の時期を考えてみましょう。

※今年度の調査で出土した石器は AT よりも下の VII～IXa 層に包含されています。→前回調査と同じ結果です。そのため前回調査と今年度の調査で出土した石器は層位的には同時代のものであると考えことができ、時期は 3 万年よりも古いと考えられます。また他の環状ブロック群も墨古沢南 I 遺跡と同様に AT よりも古い地層から出土しています。

### 墨古沢南 I 遺跡の基本土層



石器が出土する層





## 今年度の調査成果

今年度の調査成果について、調査目的にそって説明します。まず①の層位的な時期の問題ですが、先にも説明した通り、ATを含むVI層よりも下位のVII～IXa層にかけて石器が出土しています。これは前回の調査と同じ結果になっており、層位的には前回調査と今年度の調査で出土した石器は層位的に同じ時期のものだと判断することができます。また石器に用いられている石も、前回調査と今年度の調査で出土した石器ではほぼ同じ種類のものが、同じ割合で使用されています。さらに石器の種類も前回調査と異なるものは確認されていません。これらの結果を総合すると、今年度調査で出土した石器は前回調査で出土した石器と同時に形成されたものであり、環状ブロック群の東側半分にあたりと判断することができます。

次に②の環状ブロック群の径の問題ですが、今年度の調査で検出した外郭ブロックの出土状況から、従来の想定よりもさらに大きく南北60m以上、東西約60mであると判断することができます。

最後に③の付帯ブロックや別の環状ブロック群の有無の問題ですが、今年度の調査では確認することができませんでした。しかし、今年度の調査範囲外にこれらのものがある可能性は十分に考えられます。

## 来年度以降の調査目標

来年度以降は、今年度確認することができなかった付帯ブロックや別の環状ブロック群の有無を検討するために今年度調査範囲の南側を対象に発掘調査をおこないます。また遺跡北側の道路下にあると考えられる環状ブロック群の外郭ブロックを確認し、南北径をさらに詳細に把握する必要があります。遺跡の発掘調査は来年、再来年と続いています。今後とも皆様のご理解、ご協力をお願いします。

